

## 流行病・地震と愛知病院・愛知医学校の活動

羽賀祥二（文学研究科）

### はじめに一名古屋大学の災害救援活動

○2011年3月11日 東日本大震災

救援活動 ボランティア 医学部附属行院の医療派遣

○伊勢湾台風 1959年9月26日 895hPa 紀伊半島へ上陸

・和歌山・奈良・三重で・愛知・岐阜などで甚大な被害

死者 4,697 人、行方不明者 401 人、負傷者 38,921 人 愛知県 死者 3,351 (名古屋市 1,909)

・10月13日 教養部学生大会の開催

「東山移転の促進と学園の早期復興を！」

「岸内閣は安保改定を打ち切り、災害復興に全力を上げよ！」

### 1、黎明期の病院・医学校と後藤新平

・1871年(明治4)8月9日 仮病院開設(仮病院は翌年2月廃止)

・1873年5月 ヨングハンスと足立盛至を招き愛知県病院の設立

・同年11月 医学講習所を病院に置く

・1876年5月 A.V.ローレツの招聘 天王崎へ病院・医学校を移転

ヨングハンスの植皮手術を描いた錦絵

愛知県公立病院外科手術の図

・1880年5月 後藤新平(水沢出身)が公立医学校長心得・公立病院長心得に就任

→→1883年1月 後藤は内務省衛生局へ転任

・1883年10月 病院長熊谷幸之輔が医学校長を兼務

→→学科・教員の増員、校舎増築 病院・学校の拡充期

・堀川東岸の施設

「邸内数種の樹木を植え、前には堀川に出入する船舶を見下し、誠に愛すべき風景の所なり」

### 2、流行病と愛知病院

○種痘法の導入

・伊藤圭介 1852年(嘉永5)尾張藩種痘所の開設

・明治初年の種痘人員 1875(明治8)年 全国種痘人員 1401605人(対人口比 5%)

○コレラ病

・1857年(安政5) 長崎より全国に大流行

・1877年10月

コレラ病流行の兆しがあるため医学校教場を仮に用いて「虎列刺予防法取調所」とする  
公立病院教師ローレツ、「虎列刺病予防法報告」・「虎列刺病新誌」を著す

・1878年1月 ローレツ、汚水排導法の建議を県庁に提出する

同年11月 後藤新平「健康警察医官ヲ設ク可キノ建言」

・1879年7月 コレラ病流行し医員を各地に派出し、院務に支障が出る

・コレラ避病院を愛知郡千種村と熱田に設置

## ○コレラと住民

### (1) コレラ除けの祭礼 (『愛岐日報』1879年7月8日号)

名古屋長者町の須佐男神社はじめ若宮神社などの神社の様子、記事は予防に効果があると好意的に報じていた

「名古屋の下辺前津辺ハ、コレラ除けの神祭たと、町内毎に作り物をなし、又ハ大八車に灯燈を矢鱈と点し、ドンチヤン／＼騒いで、町中を挽て歩行、又ハ大勢寄ツてチャラチヤン／＼三味線入の大愉快を夜更迄呑み喰などするを見受けます、がーッかり虎列刺の呼び法になりませう」

### (2) コレラ騒動 (『愛知新聞』1879年7月30日号)

知多郡日間賀島でコレラ患者が出た時、師崎の避病院へ護送されようとしたが、村民は誤解して、“打ち殺される”“生き血を絞り取られる”とか流言する者もあり、ついに護送の巡査を取り囲んで、ねじ伏せ、怪我をさせた。巡査はサーベルで村民の一人の尻を切りつけたところ、村民は驚いて逃げた。その後6月26日には取り調べの結果二人が捕縛された。

## 3、濃尾地震について 1891(明治24)年10月28日午前6時半過ぎ

- ・震源地 岐阜県揖斐郡根尾谷 推定マグニチュード8.0 内陸直下型地震
- ・死者数7,273人、負傷者17,175人 家屋の全潰14万2177戸、半潰8万324戸
- ・愛知県西北部の家屋倒壊率は70~90%

### \*愛知病院・医学校の被害

「院長熊谷幸之輔氏始め医員諸氏、書記係員諸氏は医学校の庭前に卓榻を列し、上級生徒数名は助手として之を伴ひ、蠟燭を照らして負傷者の治療に従事し、いづれも徹夜せし由、其煩忙なること察するに堪へたり、同夜までに入院せしもの二百余名、尚ほ重傷院内にて死亡せしもの八名あり」(10月29日『新愛知』)

### \*名古屋市内の負傷者治療の状況

「名古屋市・枇杷島・熱田等の負傷者は、愛知病院並に好生館(私立病院)において治療せしめ、かつ高等医学生徒四五人を一隊とし、都合三隊を分派して市中を巡回せしめ、負傷者に一時の救治を施せり、愛知病院に於ては負傷者を入るゝの場所なきを以て、第三師団より天幕数十張を借受け、負傷者に雨露を避けしめたり、而して各被害郡村中、枇杷島・清洲・一宮・萩原・稲沢・津島・岩倉・小牧・小折・犬山へは、医員に生徒を随へ出張せしむ」

## むずびに—1890年代 「震動する日本列島」

- ・熊本地震(1889年7月28日、死者20人) ・東京地震(1894年7月20日、死者31人)
- ・山形県庄内地震(同年10月22日、死者730人)・秋田地震(1896年8月31日、死者210人)
- ・三陸地震津波(1896年6月15日、死者2万2千人)
- \*東北太平洋沿岸の地震津波 1896年、1933年、1960年、2011年

### \*1890年代の社会情勢 「大量死の時代」

- ・日清戦争 1894-95年 戦病死者1万7千人余
- ・1890年代の相次ぐ流行病による犠牲者  
コレラ75,000人 赤痢87,000人 腸チフス9,000人 天然痘31,000人
- ・「大量死」に対する政府と地域社会の対応策
- ・愛知病院と医学校の果たした役割の検討